



十二回となりました。

過去のFDWSでは、熊本大学医学部医学科の学修成果、教育方法、学生の評価方法、診療参加型臨床実習の実等についての議論がなされ、その成果は学修成果の策定、統合卒業試験の導入、臨床実習の充実等に繋がっています。また、二〇一七年度、二〇一八年度、二〇一九年度は日本医学教育認証評価評議会（JACME）による医学教育分野別評価についての議論がなされ、その成果は自己点検評価書作成や実地調査に生かされ、七年間の認証取得に繋がりました。

今回は、「能動的学習（アクティブラーニング）」と効果的な形成的評価（フィードバック）を学ぼう」をテーマに、二〇二二年十二月十一日（日）に三六名の教職員の参加の下、熊本大学臨床医学教育研究センターで開催されました。

学外講師として、本邦の医学教育におけるアクティブラーニングの第一人者である関西医科大学医学教育センター・西屋克己教授をお招きし、セッションIとして「医学教育におけるアクティブラーニング」について、大変素晴らしいご講演をいただきました。

セッションIIでは、形態構築学講座の福田孝一教授、産婦人科学講座の太場隆准教授、生命倫理学講座の門岡康弘教授、総合医学教育学講座の古川昇准教授より、各講座の取組事例の紹介がありました。

セッションIIIでは、グループワークが行われ、「アクティブラーニングの講義・実習のスケジュール・シラバスを作ってみよう」、「講義実習の中で効果的な形成的評価、フィードバックの方法」のテーマに基づき、各グループで活発な議論が交わされました。

このFDWSが本学の医学教育を改善し、優れた医師の育成として社会貢献につながるものと確信しています。

最後ではありませんが、本ワークショップに大変ご多用の中ご参加していただきました教職員の皆様に感謝申し上げますとともに、御支援をいただきました肥後医育振興会に御礼申し上げます。

肥後医育振興会第二十三回熊本エイズセミナー開催報告

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

教授・キャンパス長

上野 貴将

熊本エイズセミナーは、熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターが毎年継続して主催する国際シンポジウムで、前身のエイズ学研究センター時代から数えて二十三年目にあたります。二〇二二年十月三十一日〜二〇二二年十一月二日（三日間）にわたって、県民交流会館パレアにて、三年ぶりに対面式セミナーとして開催しました。

招へい研究者は、イギリス（三名）、フランス（四名）、ドイツ（二名）、アメリカ（二名）、オーストラリア（一名）、国内（国立感染症研、国立国際医療研究センター、北海道大学、宮崎大学など七名）に加え、フランスおよびアメリカから計二名の研究者が自ら希望し参加してくれました。また、熊本



大学の医学系大学院に設置した先端感染症コースの博士課程学生の留学生ら約五十名が参加しました。その結果、参加者の国籍が二十五か国におよぶ極めて国際的なセミナーとなりました。HIVやHTLV-1などのヒトレトロウイルスに加えて、新型コロナウイルスに関する最先端の研究成果について、教授クラスの発表二十五件、若手研究者の発表七件、博士課程学生らによる三十七件のポスター発表（十一分プレゼン）で、活発な議論が行われました。

「熊本エイズセミナー」の活発な議